



雲林寺報 第27号

2019年8月発行



1月15日 坐禅会

平和を誓い続ける

高校野球が甲子園を沸かす熱い時節。それと並行して広島、長崎の原爆投下の日があり、終戦の日と続きます。

躍動する球児の姿にエールを送りながら、ふと若くして命を落とした人々に思いを巡らす瞬間があります。

終戦後七十四年たった今も、被爆された方々は、後遺症に悩み続けています。同時に戦争や被爆の体験を知る人々は減る一方です。私たちは歴史の事実を正しく学び、過ちを繰り返さぬことを、伝えて行く責務があります。

「生きとし生けるものすべての命が大切にされま

すように」

とお釈迦様は願われました。

「自然を破壊し、無益な殺し合いをする戦争を二度と起こしてはならぬ」

と一人一人が誓って行かねばならないと思います。

最後になりましたが、私儀 昭和六十三年より雲林寺住職を勤めて参りましたが、此の度、退任いたすことになりました。

永年にわたる皆様方のご交誼を深く感謝すると共に、後任住職への御指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

略儀ながら書中を以て御挨拶と致します。

第二十九世住職

轟 紀久



平成22年11月 大本山永平寺焼香師記念 禅師様と

第11回雲林寺親睦ゴルフコンペ

日程:10月14日(月・体育の日)
 場所:草津カントリークラブ
 過去参加者にはおハガキにて通知しております。初めての方もお気軽にご参加ください。



除夜の鐘

日程:12月31日(火)
 場所:雲林寺境内
 本年は昼12時の鐘撞きも検討しております。再度お知らせ致します。



大本山總持寺と皇居前・巢鴨とげぬき地蔵参拝の旅

檀信徒皆様の親睦を深めたくお誘いあわせの上ご参加下さいますようご案内申し上げます。(詳しいご案内がお寺にございます。是非お問い合わせください。)

日程:令和元年11月6日(水)~7日(木) 1泊2日
 ご旅行費:34,000円(供養料・朝食1回・昼食2回・夕食1回・記念写真代金)
 募集人員:100名
 申込方法:8月末迄に各寺院に申込金1万円を添えてお申し込み下さい。
 旅行企画:曹洞宗第六教区護持会 旅行取扱:株式会社ビーエス観光(担当岡崎)



主な催しのご報告



- ①昨 year 大晦日、午後11時45分より除夜の鐘を撞きました。来て頂いた方全員に鐘を撞いて頂いております。是非皆様お越しください。
- ②1月2日、総代、世話人様にお集まり頂き、新年祈禱会が行われました。
- ③1月15日、長野原町スポーツ少年団による寒中こども坐禅会が行われました。坐禅後は境内にて餅つき大会を行いました。
- ④2月3日、毎年恒例の節分会が行われました。7時より祈禱法要が行われ、総代・世話人・厄年の方による豆まきが行われました。
- ⑤4月3日、毎年恒例の大般若祈禱会が厳修されました。約15名の僧侶による大般若転読は迫力満点です。その風を受けたものは御利益があるとされておりますので来年は是非一般檀信徒の沢山の方に、御来山頂きたく思います。
- ⑥7月17日、長野原町の姉妹都市、米国モンタナ州リビングストーン市より交換留学生が来寺しました。坐禅や書道、お琴の実演を体験して頂きました。

新総代紹介



佐藤良平さん

雲林寺通常総会で、総代監事に就任いたしました長野原貝瀬地区の佐藤良平です。これからの総代としてご先祖様、そして世のご縁を頂いております、すべての皆様への「感謝」の気持ちをお忘れず、雲林寺護持と発展に専心努力、奉仕いたします所存でございますので、今後ともご指導ご懇情を賜りますようお願い申し上げます。この場をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

「護持会費はどのように使われているのでしょうか？」というご質問を頂くことが多々あるので説明させていただきます。会費は戒名院号が三千五百円、戒名庵、濟、軒号が三千円、戒名居士、大姉号が二千五百円、戒名信士、信女号が二千円、いずれも年額です。毎年四月三日の大般若会頃、町内の檀家様は世話人様に、町外の檀家様はお振込みで集金させていただきます。右記の決算報告の内容の通り、建物の護持保存、宗門（曹洞宗）への賦課金、その他護持運営に使用されております。

護持会費について

雲林寺護持会決算報告

(収入)	
繰越金	2,584,466
護持会費	1,670,565
その他	180,023
合計	4,434,994

(支出)	
宗務費	632,940
会議費	538,970
慶弔費	180,824
助成金	100,000
積立金	1,000,000
その他	60,900
合計	2,513,634

差し引き繰越金	1,921,360
積立金総額	2,000,000

護持会だより

六月二十四日、ホテル櫻井に於いて第七回通常総会が開催されました。総代・世話人四十一名中、委任状提出者を含め、三十六名が出席しました。事業報告の中で、役場庁舎の山崎家所有の駐車用地は寄付の話がありましたが、相続の関係で現在保留になっていること。又、本堂裏山の治山工事は議会で採択され、護持会長から県へ陳情の意向が述べられました。



雲林寺永代供養墓の建立

永代供養塔の視察にみなかみ町の健明寺様を訪れました。境内墓地の奥に位置し、美しいドーム型の屋根が印象的でした(A)

建物全体がひとつの大きなお墓となっております。高さ約4メートル位でしょうか(B)
建物後方にドアがあり、納骨スペースになっております。特別に中を見せて頂きました(C)
ご遺骨をお預かりする棚です。健明寺様の契約形式は原則として最長三十三回忌年度まで骨壺のまま個別にお預かりし、その後地下の共同埋葬スペースに合葬(共同埋葬)するそうです(D)

今回改めて永代供養墓を視察し、供養塔(墓)の大きさ、高さからある程度、高台に建立場所を選定しないと墓そのものの良さが引き立たないのではなにかと思えました。
今現在、忠霊塔付近が、陽当たりが良く、相応しいのではないかと検討しております。
旧庁舎解体後、国道からのアプローチも含め、諸々を精査して建立をすすめて参りたいと思っております。



雲林寺境内地の整備予定

七月中旬より旧庁舎ダム対策課の解体工事が始まりました。接続する公民館の土地の所有が雲林寺が三分の一、残りが長野原町の所有となる為、約五年間は長野原町役場の重要書類、発掘品の保管場所として、建物を残したいと、役場より連絡を頂きました。

公民館は高さのある建物のため、旧道(国道145号)よりお寺全体を望むのはまだまだ時間がかりそうです。

旧役場駐車場は故山崎公忠様の所有でしたが、七月中旬に、相続された芹口様(公忠様の姪・神奈川県在住)より寄付して頂けるというご連絡を頂きました。

これにより、旧道(国道145号)より雲林寺へ向かう従来の坂道を使用せず、役場旧駐車場の土地をうまく利用し、緩やかな坂道で車が通りやすい、新しい道を新設する方向ですすめております。

皆様がお気軽に、そしてストレス無く快適に来山できます様に様々な角度から、精査しながら事を進めてまいりたいと思っております。



国道より本堂の屋根の一部が見えるだけでしたが、旧庁舎ダム対策課の解体により雲林寺本堂が望めるようになりました!

感謝録

二月三日の節分会では沢山のご寄付を頂き、ありがとうございます。毎年盛大に節分会が開催できる事を感謝申し上げます。

- | | | | |
|----------|-------------|----------------|-----------|
| 金一軒圓 | 田村 守様 | 商品券一万円分 | ひろみ美容室様 |
| 長谷川 誠様 | 商品券五千円分 | スーパードイツ様 | 浅間酒造(株)様 |
| 山口次夫様 | 油屋書店ギフト十個 | 油屋書店様 | 油屋書店様 |
| 櫻井輝久様 | 酒三〇〇ml二〇個 | 浅間酒造(株)様 | 浅間酒造(株)様 |
| 黒岩元様 | 酒粕五〇袋 | 浅間観光センター様 | 浅間観光センター様 |
| 永井芳司様 | ギフト一〇個 | かくだい小林商店様 | かくだい小林商店様 |
| 宮崎透様 | バッグ二個 | ブラシニ | 髪かざり様 |
| 萩原宗仁様 | アイスノン七個 | ぬくもりの家様 | ぬくもりの家様 |
| 野口明成様 | アイマスク三個 | メゾン | ぬくもり様 |
| 割田三男様 | 温熱シート六個 | 電子体温計十個 | 長生病院様 |
| 割田裕美様 | ギフト五個 | スポーツハウス市川様 | 櫻井医院様 |
| 吉澤建設(株)様 | スコッティ一〇個 | セブンイレブン長野原大津店様 | 長谷川浩一様 |
| 金伍軒圓 | 佐藤良平様 | 彩果の宝石一〇個 | 轟 捷夫様 |
| 浅白親光様 | BOXティッシュ二〇個 | アロエクリーム十六個 | 野口商店様 |
| 群北車両様 | ボールペン二十四個 | ちりとりに十個 | 長谷川浩一様 |
| 浅見良雄様 | タオル一〇本 | 酒四合六本 | 松屋金物店様 |
| 宮崎広保様 | 奈良屋味噌十個 | ナウリスクッキー五個 | 村上海店様 |
| 青木博文様 | やま柿五個 | ナウリギフト | 黒岩林業様 |
| 宮崎昭様 | 草加せんべい五箱 | 黒岩林業様 | 黒岩林業様 |
| 宮前正様 | 有篠原ギフト十五個 | 篠原斎場様 | 篠原斎場様 |
| 柴崎年彦様 | オリブオイル十個 | 商業開発様 | 商業開発様 |
| キュービット様 | チョコレート六箱 | 萩原宗仁様 | 萩原宗仁様 |
| 高橋部品商会様 | | | |
| 坂井工業様 | | | |
| 橋詰隆夫様 | | | |
| 金二軒圓 | | | |

本堂奥の戸棚修復

長野原町川原湯地区、清水建具木工の清水英様のご好意により、本堂奥の棚の戸を修復して頂きました。本堂裏には、古くからのお位牌が置かれていますが、棚が新しく、美しくなった為、明るいスペースとなりました。ありがとうございました。



六地藏の帽子御掛け

篠原禮子様のご好意により本堂前六地藏の帽子と御掛けを新しく作成して頂きました。お地藏様達も喜んでいらっしゃると思います。ありがとうございました。



梅花流たより

熊本地震から三年が経ち、大変な困難を乗り越えてきた、熊本の地で梅花流全国奉詠大会が開催されました。会場となった「グランメッセ熊本」は甚大な被害のあった益城町にある会場です。

私達は大会前日、復興中の熊本城を見学しましたが、周辺はまだまだ作業が完了していない地域も点在しており、元の暮らしが戻ってきたとは言えません。特に道端にはたくさんさんの目印を付けられた石がところ狭しと置いてあるのが印象的でした。

改元し、初めての全国大会となりましたが、いつものオープニングでは民謡の牛深ハイヤ節(うしぶかハイヤぶし)：旧牛深市で江戸時代から伝わる「元祖ハイヤ節」のあでやかな衣装、立振る舞いに目がくぎ付けとなりました。

第一部では曹洞宗管長・大本山總持寺貫首の江川辰三禅師様のもと、開会式を行い、引き続き熊本地震自然災害物故者追悼法要が厳修されました。

そして、いよいよ登壇奉詠となりました。今回は静岡第二宗務所と群馬県の合同登壇でした。しかもその代表として雲林寺講の中澤至子様の詠題、宮崎八ナ様の詠頭の伸びのあるお唱えが会場内を流れました。私達詠衆もその波に乗り、心地よい梅花をお唱えすることができました。

今回特別奉詠として中国・雪竇山資聖禅寺(せつちようざんじしやうぜんじ)より男女四十数名の修行僧の皆様が参加して下さいました。曲目は釈尊花祭り第一番の御詠歌で一糸乱れずに奉詠されている姿に会場は水を打ったように静まり返り思わず心の中で「お見事と叫んでしまいました」。

第四部の清興では熊本市生まれの水前寺清子さんが「いっっぽんどこの唄」「二百六十五歩のマーチ」等など会場を右の端から左の端まで疲れると言いながらの大熱唱に皆様から大好評を頂いております。

閉会式ではいつものように坐禅御詠歌奉詠の中、椅子坐禅です。来年の再会を約束し「まごころに生きる」の大合唱でフィナーレとなりました。今年の全国大会は特に中身の濃い大会となったと再認識させられたのではないのでしょうか。

当山ではいつでも梅花流のお仲間を募集しております。お気軽にお問合せ下さい。

轟 美代子



詠頭の宮崎八ナ様、詠題の中澤至子様

- 参加された講員様
- 落合雅子様
 - 篠原節子様
 - 渡辺しず子様
 - 原澤幸子様
 - 佐藤フサ子様
 - 山野栄子様
 - 宮崎恵美子様
 - 依田たつ子様
 - 中澤至子様
 - 宮崎八ナ様

七月二十二日、尊いご縁をいただき、私(副住職)がベルジ南淡川という老人ホームを慰問させて頂きました。およそ五〇名の入所者様の前で最初に法話をさせて頂き、梅花流御詠歌「まごころに生きる」をお唱え致しました。四〇〇五〇分ほどのお時間でしたが、最後には皆様にお唱えを覚えて頂き、大合唱にて終了致しました。又、過去に全国奉詠大会に参加された入所者様もおられ、大変懐かしがられておりました。

- 梅花には四つの功德(くどく)があります。
- ① 仏教の理解を深める
 - ② 音楽的な魅力がある
 - ③ 感情を引き出されやすい
 - ④ 健康に良い
- 日頃しまっている感情が引き出され、心の穴、傷が癒されます。そして声をだすこと、唱えながら正確に左右の手を操ることは健康に良いとされており、
- 今後このような活動を続けて行きたいと思えます。



得度式(とくとしき)

僧侶になるための最初の儀式を「得度式」といいます。一般的には寺院の子供が十歳ころに行います。私、副住職も昭和六十二年、十歳の時に得度致しました。

得度式では、出家して僧侶となる決意を問われます。次に、修行とはどういうことかを教わり、出家の決意をいただきます。

髪の毛を剃る「剃髪(ていはつ)」の儀式が行われ、仏弟子としての名前(法名)と袈裟を授かります。そして、戒律を授かることで、修行者としての生活のあり方を教わります。こうして、いよいよ修行が始まるのです。

今秋、長男の陽春が内々で得度式を厳修致します。成長を見守りたいと思えます。

編集後記

皆様、残暑お見舞い申し上げます。立秋とは名ばかりの厳しい暑さが続いておりますが、ここ長野原町では朝夕に吹く風に秋の気配が感じられるようになっています。当山も檀信徒の皆様の日頃よりのご協力、お力添えにより、寺の行事等を無事円成できていることを大変うれしく思います。

特に田村護持会長をはじめとする、総代の皆様そして世話人の皆様には、感謝の念にたえません。ありがとうございます。

寺の護持、維持、発展には私ども寺に住まわせていただいている人間だけではどうにもなりません。檀信徒の皆様と一体となり、古きを慕う心を忘れず、時代に合わせた寺づくりに邁進していきたくと思っております。

雲林寺報の前号でも触れさせていただきましたが、これから数年かけて寺の西側の境内地の整備を進めてまいります。お寺に御来山の際には気軽に立ち寄っていただき、皆様の意見を拝聴しながら、歩を進めていきたいと考えております。

百尺竿頭進一步

【ひゃくしゃくかんとうしんいっぽう】

欲張らず且つ、百尺の竿の先の一步を踏み出したと思えます。

副住職 轟 省吾